

収益事業

旧海軍司令部壕事業所

旧海軍司令部壕は、太平洋戦争中の昭和19年（1944年）に日本海軍設営隊（山根部隊）によって掘られた施設で、那覇市の南西に位置し、東シナ海、那覇市街、首里城等が展望できる風光明媚な高台にあります。カマボコ型に掘り抜いた横穴をコンクリートと杭木で固め、米軍の艦砲射撃に耐え、持久戦を続けるための地下陣地で、4,000人の兵士が収容されていました。沖縄戦の終末期を迎えた昭和20年6月6日、海軍部隊の司令官大田実少将が沖縄戦の実相を詳しく伝えた名電文「沖縄県民斯く戦へり」もこの壕内から打電されました。



戦後しばらく放置されていましたが、数回にわたる遺骨収集の後、昭和45年（1970年）に沖縄観光開発事業団によって司令官室を中心に300mが復元されました。

現在、壕周辺は平和を発信する戦跡公園として整備され、平和祈念や憩いの場として多くの人々に親しまれています。

<所在地>

〒901-0241 沖縄県豊見城市字豊見城 236 番地

TEL : 098-850-4055 / FAX : 098-850-9342

〔建設日〕 昭和19年8月～12月頃

〔一般公開〕 昭和45年3月1日

〔面積〕 4,969 m²

〔施設内容〕 壕（壕の長さ 275m、昇降廊 35m、司令官室、作戦室、幕僚室、医療室等）

ビクターセンター（資料展示有り）海軍戦没者慰霊之塔

〔公園施設〕 面積 6.5ha



(1) 資料館内



(1) 慰霊之塔



(1) 展望台からの眺め

旧海軍司令部壕WEBサイト <http://kaigungou.ocvb.or.jp/>